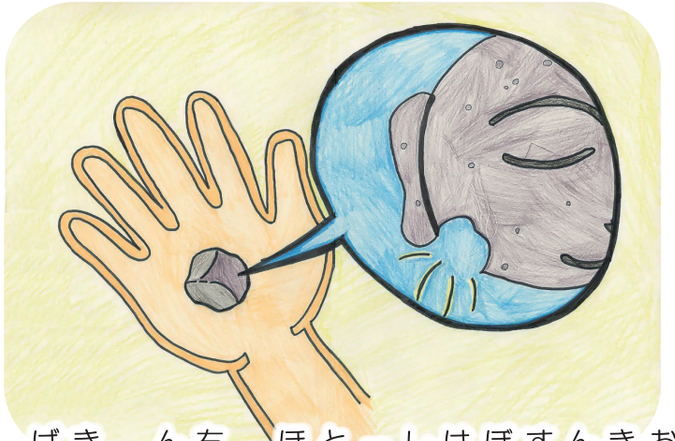
貝塚学用教材

# 『万病地蔵』
## ～貝塚に伝わる民話～

①
むかし、かいづかに つだ村という 村がありました。
あるとき、村の中をながれる つだ川のていぼうがくずれてきたので、なおすこうじをすることになりました。
ところが、こうじをするばしょには、一体のおじぞうさんがたっていたのです。そこで、みんなでそうだんして、ていぼうの下にうつすことにしました。

②
村人の中に ごすけというらんぼうものがいました。
らんぼうもののごすけは、「ていぼうの下に、うつすのなんか、かんたんや」というがはやいか、そのおじぞうさんを いきなり おしたおしたのです。すると、おじぞうさんは、ていぼうの上から、コロコロ、コロリンコと、ていぼうの下まで ころがりおちました。ごすけが、ていぼうの下までいって、おじぞうさんをみると、おじぞうさんの右ほほが、かけていました。
「エライこと、してもた。」と、こころの中で おもいましたが、このことは、ほかの村人たちには、ないしょにしておくことにしました。

③
そのの夜のことです。なんと、ごすけの右ほほには 大きなきずができ、たかいねつも出て ねこんでしまったのです。
「おねぜんのびょうきに村人たちは、おろおろして あつまりました。
せんこんでいるごすけは
と、じぞうさま、かんべんして、かんべしてください。おかおに けがをさせて、ごめんなさい。」
村人たちは、なんども あやまっているのです。
ていぼうの上から、おじぞうさんをころがしたとき、おじぞうさんをきずつけてしもたんちゃうか。」
と、はなしをしました。



④
つぎの日のあさ、村人たちはおじぞうさんのかおを みにいきました。すると、おじぞうさんの右ほほが かけているのです。そこで、村人たちはていぼうの 上から下までじめんをはうように、かけらをさがしました。
「あったでぇ。あったでぇ。」と、村人の一人が、かけた右ほほのかけらを みつけました。
村人たちは、おじぞうさんの右ほほに かけらをつけて、みんなであやまりました。
すると、ごすけは、右ほほのきずがなおり、ねつも下がってげんきになっていきました。

⑤
それから、このおじぞうさんは、どんなびょうきもなおしてくれる ありがたいおじぞうさんであるといわれるようになり、村人たちは、『万病地蔵』とよんで、たいせつにしました。
ところが、なんども こう水があったり、ていぼうの こうじをしたりするうちに、ざんねんながら、このおじぞうさんの ゆくえは、わからなくなってしまったのです。
もしかすると、みなさんのちかくにあるおじぞうさんが、この万病地蔵かもしれませんね。

発行者　貝塚市教育委員会
イラスト
貝塚高等学校 総合学科
十五期生